



一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2026年号



世界平和祈願碑の建立

令和七年四月二十八日、旧武徳殿前において、東伏見慈晃総裁猊下及び吉田良比呂京都市副市長のご臨席の下、大日本武徳会創立百三十年記念世界平和祈願碑の除幕式が執り行われました。

この世界平和祈願碑は、

大日本武徳会の百三十年記念と終戦八十周年の歴史的節目において、地球上の恒久的な世界平和を祈願すると共に、本会の伝統武道の保存継承に対する決意を示す象徴的なレガシーを残すという趣旨で建立されました。

(事務局撮影)



総裁 東伏見 慈晃



フレッシュユマンパワーに未来を託して

代表理事 山田 文典

平素は、本会の発展のため献身的なご協力とご指導を賜り心から御礼申し上げます。

機関誌「武徳」の発行回数は年間春秋の二回でありましたが、誌面の更なる充実と物価高騰を理由に年一回にいたしましたことをご理解願います。今後、より良い誌面の充実に向け機関誌編集委員会一同、尚一層の努力を怠りません。

さて、昨年四月の第七回世界武徳祭、第六十三回全国武徳祭では海外二十カ国からの武道家と多数の本部先生方が武道の聖地、京都市旧武徳殿に結集し、全ての行事を無事成功に納め本会の大きな歴史の一ページとすることができました。

特に武徳殿正面に念願の創立百三十周年、戦後八十年を記念した「世界平和祈願碑」を建立することができました。

除幕式では、参加者全員が戦争や飢餓、苦しみのない世界に向けて心を新たに祈りを捧げ平和を誓った感動の時となりました。世界各地で未だ止まない戦火や緊張した安全保障環境は衰えが見えないことは誰もが憂慮しているなか、意義あるものとなりました。

現在、国際部本部の米国をはじめカナダ、欧州、オセアニアを中心に約三十三カ国に支部をおき日本の刀剣アニメ人気で武道ブームの追い風となり入門者も増加している現状にあると言われております。

昨年秋には米国バージニアビーチにおいて国際部六十周年の記念行事が開催されたほか、世界の地域や国ごとに武道行事が躍動的に行われております。

平和祈願碑から発する世界平和の望みは、参列した全ての武道家が母国に持ち帰り全世界に広がることを願って止みません。

一方、国内におきましては少子高齢化が深刻化し、高齢による指導者の減少、出生率の低下による青少年の減少に憂慮している状況にあります。このことは国内の武道界全体においても同様の現状から武種の垣根を越えた武道人口増加に向けて各自自治体とも連携して取り組まれてきていることからもうかがい知ることができま

す。本会の目的とする日本伝統武道の継承と発展、青少年の育成や国際交流推進を進展させるため喫緊の課題であります。

本会では、武道執行専門委員の活動の補助と将来の人的基盤向上を目的に准武道執行専門委員を指定しております。指定基準としている本会四段、

五段の一般会員で団体の推薦を受けた将来性を有するものから指定しておりますが、今後、有段者の一般会員に枠を拡大して推薦していただくことへと改正をすることといたしました。

准武道執行委員は、武道の修練に加えて本会主催行事の運営に参画し、会場の設営や入場警備、参加者の誘導、突発事故・事案への対応等幅広い管理運営業務を通して会の目的を深く理解しエネルギーに取組み、会員間団結を深めることで団体の相互交流や友情を深める発展的な成果をあげております。

本会の将来を支えるには、武道の修練や各地域での活発な活動はもとよりSNS等を駆使した新時代の情報発信や新企画等、実現するには若い力が必要不可欠です。武歴の浅い者でも高度な知識技能を有するものが多くいると見込まれ、従前の形に拘る考えから脱却し、更なる発展を進めたいと考えます。

また、青少年育成は、本会の未来に希望を繋ぐ最重要課題であります。

崇高な武徳の精神は彼らによって伝えられることを肝に銘じ、一人でも多くの後継者を育成するには、大きな夢を持たせることが重要と考えます。今年、計画されているイタリヤでの武徳祭では、選抜された青少年が参加いたします。

日本の伝統武道を海外で披露する夢の実現を継続して行う予定です。

国内外の遠征には経費も必要です。また学校行事や周囲のご理解も必要となります。彼らにはその負担以上に得がたい遠征地の文化や歴史を知り、現地の青少年との交流といった体験は人生の財産となり、未来を更に広げていく糧となると思います。

世界武徳祭に先駆けて開催された国際武道講習会の反響は大きく、海外の武道家の本会流派、団体への関心は高まり、熱心な受講姿勢は本部指導者にも感銘を受ける成果を肌で感じました。終了後から国際部本部を通じて武道の指導や交流を求める要望が多数来ており、今後も国内外において活発な活動に期待をしております。

本会の未来には活力漲る若い力、フレッシュユマンパワーを必要としていきます。団体長の皆様は積極的なご協力を賜りますようお願いしご挨拶とさせていただきます。

最後に皆様のご健康、ご多幸、本会の発展をお祈り申し上げます。



大日本武徳会創立130周年記念 第7回世界武徳祭 世界平和祈願碑除幕式

In Commemoration of 130th Anniversary of the DNBK
The 7th World Butoku Sai
Unveiling Dedication Ceremony of
the World Peace Monument



Date: April 28, 2025
Budo Center, Kyoto City

主催：一般社団法人大日本武徳会 DNBK
大日本武徳会国際部 DNBK ID
NPO法人日本教育文化センター JECC Inc.

世界平和祈願碑除幕式報告書

国際部 坂本 俊一

令和七年四月二十八日午前、大日本武徳会創立百三十周年記念、世界平和祈願碑の除幕式が、東伏見慈晃総裁殿下、吉田吉比呂京都市副市長のご臨席の下、また大日本武徳会の幹部・高段者及び第七回世界武徳祭に出場するため来日した多数の外国人武道家の参加を得て、京都市武道センター及び旧武徳殿の間の敷地において盛大に執り行われました。

この世界平和祈願碑の設置は、本会の百三十周年記念と終戦八十周年の歴史的節目において、地球上の恒久的な世界平和を祈願するとともに、本会の伝統武道の保存継承に対する決意を示す象徴的なレガシーを残すという趣旨で、本会の前代表理事が考案され、自ら全額寄付をされて実現するに至りました。

式典では、総裁殿下及び京都市副市長からのご挨拶を頂戴した後、全員が記念碑の前に移動し、参集した武道家たちに囲まれて厳かに除幕され、その場にいた全員がかたずをのむ中見事な碑が現れました。

前代表理事から記念碑の説明と記念碑建立に際する深い思いが述べられ、その後全員で記念撮影をして、式典は終了いたしました。

今後、本記念碑が未来永劫、武道を通じて世界平和が保たれることの象徴として輝き続けることを、切に祈念いたします。

ピースモニユメント除幕式に 御協力いただいた方々への感謝

一心無双流居合道剣心会 中野 秀人

令和七年四月二十八日午前八時五十七分、管理運営委員長の山田文典先生から、トランシーバーにて連絡が入った。「ただ今より車両通行不可になった!」車両の通行を止めるよう指示が入ったのだ。

私は、即座に山田先生からの指令を復唱する。急遽編成された私を含めて五名のチーム員は全員、赤色誘導棒を手に武道センター入口歩道の配置についた。

除幕式は無事に進行しているようである。

一方で、我々チーム員は、武徳会以外の武道センター利用者が車で来場しないよう祈るばかりである。

そうした中、一人、また一人と刀ケースをもった来場者がセンターに入っていく。聞けば、三十名程度の方々が補助競技場で居合道の稽古をするという、車は十台くらい来るとのこと。

事情を説明すると、御納得を得ることができ、その上、責任者と思しき方が、チーム員と一緒に入口に立つて、車で来られたその団体の方々に説明をして下さったのだ!

まさに天の助けか。

とはいえ、他の駐車場の利用をお願いしたところ、運転者から駐車料金差額の負担を求められるという一幕もあったが、他には、近くの医院に行くために駐車場を利用しようとした方に他の駐車場利用をお願いしたこともあった。

十五分くらい経過した頃だろうか、また難局がやってきた。なんと、同時に右折と左折の車が、それぞれ、武道センターに入ろうとしている。聞けば、弓道場の利用者だという。左右の車に個別にお願いする間に、さらに無関係の後続車両が渋滞し始めたのだ!

万事休すである。

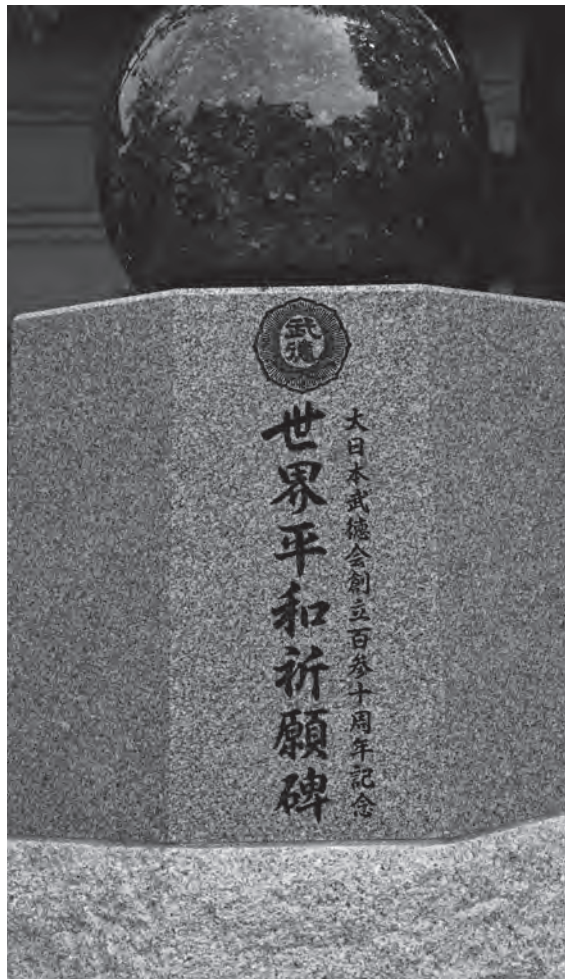
止むを得ない。私は、ゲート前のスペースまで車両を誘導すると決断した。利用者の方々は、我々の御説明には一応納得した様子で、ゲート前の車の整理に御協力いただいた。

すると今度は、「ゲート前は、本来駐車スペースではない」と武道センター職員からお叱りを受けた。

それぞれのチーム員が、各方面に何とか御理解いただく努力を継続し、そうこうしているうちに、午前九時三十分頃、山田先生から「今より車両通行可」と指示があった!チーム員一同、安堵の声を上げた。チーム員は、利用者の方々にはできるだけいいねいに御礼申し上げ、武道センター職員は、ゲート前に車を停めた各施設の利用者に車を動かすよう伝達して回って下さった。

世界恒久平和を祈念する極めて重要なピースモニユメント除幕式が、滞りなく、無事に開催できたのは、大日本武徳会の会員だけではなく、他の武道団体や武道センター職員、また、一般市民の皆様の御協力のおかげでもあることを、武徳会会員諸先生方には是非とも知っていただきたく、筆を執った次第である。

ピースモニュメント世界平和祈願碑除幕式





大日本武徳会創立130周年記念 第7回世界武徳祭・第63回全国武徳祭 開会式・祝宴会プログラム

In Commemoration of 130th Anniversary of DNBK
And the 7th World Butoku Sai
Official Program of the Opening Ceremony



令和7年4月28日 April 28, 2025

ウェスティン都ホテル 瑞穂の間、Westin Miyako Hotel Mizuho no Ma

主催：Sponsored by

一般社団法人大日本武徳会 The Dai Nippon Butoku Kai General Corporation

大日本武徳会国際部 DNBK International Division

協賛：日本教育文化センター JECC Inc. NPO Corporation

後援：Supported by

京都府 Kyoto Prefecture Government

京都市 Kyoto City

京都新聞 Kyoto Newspaper開会式式次第

Opening Ceremony Venue

16時より開始予定 Starting time 16 : 00

総合司会：濱上雅子 MC : Masako Hamagami

通訳：Interpreter : Jeffrey Williams

総裁・御来賓入場 Entering of Sosai and Official Guests of Honor

開会式宣言 大会副委員長 竹田 豊 Opening Ceremony Declaration

国旗に礼 黙祷 Rei to the National Flag and Silent Prayers

国歌斉唱 National Anthem

開会挨拶 大会委員長 濱田鉄心 Opening Remarks Tesshin Hamada

開会式辞 大会会長 総裁 東伏見慈晃 Opening Ceremony Address
Sosai Higashifushimi Jiko

[おことば]

特別御来賓 彬子女王殿下 Special Guest of Honor,
Her Imperial Highness, Princess Akiko

[来賓祝辞]

京都府知事 西脇隆俊 Governor of Kyoto Prefecture, Takatoshi Nishiwaki

京都市長 松井孝治 Mayor of Kyoto City, Koji Matsui

宣誓 Pledge Declaration of Participants

日本代表 小田朱乃 Akeno Oda , Japan

国際部代表 ホリー・クンパイティス Hollie Kumpaitis, DNBK International Division

表彰 Recognitions

京都府知事賞 Kyoto Governor Award

山田文典 Hubert Thomas

京都市長賞 Kyoto Mayor Award

上村雅彦 Ken Tallack

京都新聞賞 Kyoto Newspaper Award

坂本俊一 Carl Long

武徳栄誉賞 最高段位表彰者 Butoku Illustrious Merit of Honor Award

竹田 豊 Yutaka Takeda 伊藤 学 Manabu Ito

木下公子 Kimiko Kinoshita 市村 章 Akira Ichimura

村田雅人 Masato Murata 山本楠城 Nanjyo Yamamoto

武徳騎士賞 Butoku Knight Award
落合春彦、Roger Payne

武徳青少年育成功労賞 Butoku Dedication Award for Youth Program
中田浩大、Larry King

総 裁 賞 Sosai Award
平 松男 Kim Baylor

理 事 長 賞 President of DNBK Award
道観世宗慶、田中天心、東出廣志、北川 茂、藤井正巳、松村則夫、
山本勇、北野隆雄、Alfred Vismara, Kevin Walsh, Pietro Paterna,
Jeff Hastings, Codruta Rechesan, Herbert Aroca, Robert Dejardin

武徳国際平和賞 Butoku World Peace Award
DNBK ID – Steve Mahan to receive on behalf of ID groups.

国際武徳優秀賞 International Butoku Outstanding Leadership Award
DNBK ID Official Representatives, Coordinators and Selected Dojo Heads:
Berthiaume Sylvain, Faucher Alain, Mark Richard, Scrivens Bruce, Taylor Dan,
Boyle Michael, Gusack Christopher, Steinbeck Peter

国際武徳奨励賞 International Butoku Leadership Commending Award
Araujo Jose Manuel, Bardanzellu Fabio, Fehr Bjoern, Lafrance Benoit, Neidhart
Alex, Selvey Michael, Walker Antoine, Williams Michael, Wimmer Wolfgang,
Backus Christopher, Campbell Peter, Daniel Michael, Hayes Dennis, Heilman
Lorraine, Kumpaitis Hollie, Martin Betty, Meko Devon, Michel Frank, Myers, Jr.
Bruce, Myers, Sr. Bruce, Nguyen Suzanne, O'Hargan Margarita, Peng Tony,
Rossmiller Keith, Tenia Sheldon, Witter Elizabeth, Williams Jeff, Furguson
Cynthia

武徳功労賞 Butoku Meritorious Service Award
齋木泰徳、二又静明、長田順一、中森茂範、樋口友視、村山盛哲、小松秀敏

閉 会 の 辞 大会委員長 濱田鉄心 Ending Remark Tesshin Hamada

閉 会 宣 言 大会副委員長 竹田 豊 Ending Declaration Yutaka Takeda

記 念 写 真 Official Commemorative Photos

京都府知事賞

京都府知事賞を受賞して

一般社団法人大日本武徳会理事
一心無双流居合道剣心会 総師範

山田 文典

大日本武徳会創立百二十周年第七回世界武徳祭第六十三回全国武徳祭におきまして京都府知事賞を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

本会創立百二十周年、終戦八十年の大きな節目の年に記念すべき大会において京都府在住の私にとって知事賞を賜りましたことは身に余る光栄であり、改めて身が引き締まる思いをいたしました。

武徳祭の前日の朝、武道センターにおきまして世界平和祈願碑序幕式が取り行われ本会代表理事濱田鉄心先生が巨額の私費を投じてピースモニュメントを起立され世界平和の実現を祈念されました。世界二十カ国二百五十名の国際部武道家と本部の先生方が見守る中、厳粛に厳かに式典に立ち会った後の表彰となり感動の一日となりました。

武徳祭当日、当流派の参加剣士に平和祈願碑の趣旨説明、式典の感動を伝え記念写真をとりました。

今後、モニュメントを見る人全てが平和の尊さを考え、実行してくれることを願ってやみません。

私は、今回の大きな感動を心の糧として日本伝統武道の保存継承、本会の更なる発展に全力で取り組んでいきたいと思えます。先生方、引き続きご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



平和祈願碑前で当会参加剣士と共に

京都市長賞

京都市長賞を頂き

一般社団法人大日本武徳会理事
武道探求 正守和道塾 塾主

上村 雅彦

令和七年四月二十八日午前

『Peace Monument Dedication 世界平和祈願碑除幕式セレモニー』が、京都府武道センター敷地内の旧武徳殿北側で、立命館大学メディックス合唱団の豪華な演奏に彩られながらご来賓様と会員の皆様が一堂に会して平和の願いを祈り、そして除幕式が厳かにとり行われました。

午後からは京都ウエスティンホテルにて

『大日本武徳会 創立百二十周年記念 第七回世界武徳祭 第六十三回全国武徳祭』開会式と記念祝宴会が開かれました。

その開会式において栄えある京都市長賞をいただき、受賞の誉に浴し、心より感謝申し上げます。

これからも一般社団法人大日本武徳会が更なる発展を成し、後世に名実ともに日本武道の指針として世界平和を成し得る団体であるべくことを願っております。

至らぬ私ではございますが、微力ながらお役に立てればと存じまして武道探求の道を歩ませていただく所存でございます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

京都新聞賞

第七回世界武徳祭・第六十三回全国武徳祭で京都新聞賞を受賞して

国際部 坂本 俊一

この度、令和七年四月二十五日の武道講習会を皮切りに三十日の国際錬成大会までの六日間にわたる一連の行事にフル参加させていただき、更に世界武徳祭では「京都新聞賞」という京都府知事賞、京都市長賞に並ぶ賞をいただくという光栄に恵まれました。

これは私一人の力で頂けた賞でもなければ、何か私自身に特別な受賞理由があったわけでもないと思います。ただ、国際部の特に武心館の皆さんと一緒にやり素晴らしい演武をみせようと事前稽古を積み重ねた結果がこのような賞の受賞につながったもので、言わば一緒に稽古してきた皆で頂いた賞だと考えております。

十九日に武心館の精鋭と同じホテルに入り、翌日から若手に交じって稽古し、団体演武でピシッと形を極めることだけに集中した数日間の思い出は、今となっては素晴らしいものですが、正直、一日目の夕方は「あと何日これが続くんだろう。ズームで何度も稽古したのに、こんなことで本当に形は極まるんだだろうか」と、この年齢になって高校生が感じるような久しぶりの不安と絶望感で一杯でした。ところが日を重ねるうちに、初めは基本の動きすらバラバラだったのが徐々にまとまってきて、そのうちに指導している私の方が逆に細かいところを指摘されるくらいになってきたのです。そして本番では、若手から高段者までが一つになって、気合の籠ったいい形を打てたと思います。

京都新聞賞ってどんな賞ですか。それは私にとつて武心館の連中との絆をより一層固めることができた結果、皆で頂戴した特別な賞だと思っています。本当にありがとうございます。

武徳栄誉賞

創立百三十周年記念大会に於きまして

日本古武道武公館道場 館長 木下 公子

総裁東伏見慈晃様、代表理事濱田鉄心先生を始め、本部役員並びに事務局の方々のお取り計らいにより、素晴らしい創立百三十周年記念大会が終えられました。深く感謝申し上げます。

この度は、身に余る九段位を賜り、大変恐縮致しております。誠に有難うございました。日本の古武道が海外の多くの方々に理解され、日々修行を積み重ねておられます事に敬意を表しますと共に、私たちも日本人として誇りを持ち、修行を通じて心と技を後世に伝えてゆくべく、いつまでも初心を忘れず、後進の指導を続けて行かなければと身を引き締まる思いでございます。

後になりましたが、関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます、お礼の言葉とさせていただきます。

武徳栄誉賞

武徳栄誉賞を受賞して

双水執流武尊会 伊藤 學

四月二十八日大日本武徳会創立百三十周年記念行事、第七回世界武徳祭、第六十三回全国武徳祭開会式当日、濱田先生の私財による世界平和記念碑除幕式の後のウェスティン都ホテル京都瑞穂の間において記念祝宴会が開催され、彬子女王殿下のご臨席賜り、西脇京都府知事、松井京都市長ご出席の場において濱田鉄心代表理事に見守られる中、東伏見慈晃総裁により最高段位、武徳名譽賞をいただき、技だけでなく人格精神等の初心に戻り修行に励みます。

少しでも武徳会に貢献できる様頑張りますので東伏見慈晃総裁、代表理事濱田

武徳栄誉賞

鉄心先生、国内外の役員先生、諸先生、皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願
い申し上げますとともに、皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

武徳栄誉賞を受賞して

虚心流居合剣法宗家 範士九段 山本 楠城

令和七年四月二十九日、第七回世界武徳祭及び第六十三回全国武徳祭が盛大か
つ成功裡に行われましたが、その前日、開会式のセレモニーにおいて三笠宮彬子
女王殿下御列席のもと、武徳栄誉賞及び居合道九段の証書をいただきました。

浅学非才の我が身といたしましては、武徳栄誉賞、また九段という高段位には
到底ふさわしくなく分不相応ですが、今後さらに努力を重ねよとの叱咤激励を頂
いたものと考え、謹んで拝領させていただきました次第です。

行き過ぎた個人主義の進展によりますます変容混乱していく昨今の社会におい
て、伝統的武道文化の保存・発展を主たる目的とする大日本武徳会の存在及び活
動は極めて貴重です。かような栄えある大日本武徳会の活動、趣旨目的に違わず、
今後さらに研鑽に努める所存です。

有難うございました。

総裁賞

総裁賞を受賞して

至誠館道場 平 松男

大日本武徳会創立百三〇周年記念 第七回世界武徳祭 第六十三回全国武徳祭
開会式に於いて総裁賞をいただきました。若輩者の私にとって大変大きな賞で
した。

理事長賞

理事長賞拝受

空手愛道家 道観世宗慶

濱田代表理事及び役員の方先生方又各武道の先生方に御礼を申し上げます。
当日は初めて壇上に上がり東伏見総裁より表彰状を受け、彬子女王殿下への御
礼と共に緊張の一瞬でした。有難うございました。

これからも大日本武徳会の繁栄を祈るとともに武道に精進したいと思ひます。
又今回も世界の武道家の方々の所作と礼節及び規律の良さに感心いたしました。
我々見習う事が多いと思ひました。

この度の第七回世界武徳祭・第六十三回全国武徳祭に於いて、誠に僭越ながら
愚生が「理事長賞」を拝受いたしました。二十五日には国際武道講習会セミナー
で、空手道講師を務めさせて頂き、多数の諸外国の空手愛道家と共に汗を流させ
て頂き、貴重な時間を賜ったことは感謝に堪えません。そして世界平和祈願碑の
除幕式に立ち会えたことは、一生の記憶に遺る感動シーンでした。

先般の総会にて本部席より、大掛かりな世界武徳祭は今回を最後にし、向後は
団体広報に注力して会員増強を目指すことを発表されました。その公表を受け、
我々も新しい方々を迎え入れる側として、襟を正し、襲古還新の武道家として姿
勢を新たにしていかねばと感じております。

理事長賞

理事長賞を受賞して

弓刀錬心館道場 代表 北川 茂

目に鮮やかな新緑と心地よい風がこころを和みせてくれる季節に開催された第

七回世界武徳祭・第六十三回全国武徳祭の開会式で、濱田鉄心理事長から、榮譽ある理事長賞を受賞することが出来ました。日本の伝統武道の発展に寄与した功績が認められ、この賞をいただきましたことに感謝申し上げます。

私が運営する弓刀錬心館道場は、開設二十二周年を迎えることが出来ました。しかし、よくよく考えてみれば、私はあと数カ月で後期高齢者の仲間入りです。今から弟子をとり一人前に育て上げるには、絶対的な時間が足りない事に今さらながら気が付き愕然といたしました。

後進の指導の続きは、道場の師範代と助教に任せ、残された時間で体系的な教伝書の作成に取り掛かりたいと考えています。

理事長賞

創立百三十周年記念・第七回世界武徳祭、 第六十三回全国武徳祭において理事長賞を頂いて

至誠館道場 藤井 正巳

このたび創立百三十周年の記念大会の第六十三回全国武徳祭において、このような大変名誉ある賞を受けたことは、私自身にとっても本当に意外で、私ごときものに、このような賞が頂けたことに身が震える思いがしました。

これもひとえに私共を応援してくださる先生方、濱田代表理事、竹田理事、中田理事、山田理事、上村理事、松村理事、坂本監事、平監事はじめ本部の先生方のおかげであると大変感謝しております。

さらに、当道場は人数の減る中、新しく体制の整備も整えつつ、会員全員の努力と真摯な姿勢で頂いた賞だと感じております。これは道場全員での受賞と思っております。

特に、今年の大会は、フランス、英国、アメリカなどの海外の優れた武道家の皆様も参加され大変有意義な大会になり、すぐれた武術家の皆様方の演武に、感動し多くのものを勉強させていただきました。

私共、至誠館道場は、精神的な面に重点を置き、日々努力しており、技についても状況を考えた歴史にまで遡り日々研究しております。

まだまだ道場として未熟な域を脱しませんが、それぞれが、努力しおたがい

が助け合っております。そのような時期に、このような立派な賞を頂けたことは私自身凄く励みになっております。

これを契機に更なる地道な努力と鍛錬を積み重ねてまいりたいと考えております。

そして、当道場だけのことでなく大日本武徳会のさらなる発展のため少しでも貢献できるよう努力してまいりたいと考えております。

最後に、今回このような立派な大会を成功させた諸先生方、並びに大会を成功に導いた濱田代表理事はじめ諸理事の皆様方におおなる感謝をするとともに、一般社団法人大日本武徳会並びに国際部の益々の隆盛をご祈念申し上げます。

創立一三十周年記念 第七回世界武徳祭・ 第六十三回全国武徳祭 開会式・祝宴会結果報告

一般社団法人大日本武徳会 理事 山田 文典

1 開会式

(1) 開催日時

二〇二五年 令和七年四月二十八日午後四時から

(2) 場所

京都ウエスティンホテル 瑞穂の間

(3) 式次第

総裁・御来賓入場、開会式宣言、国旗への礼、黙祷、国家斉唱、開会宣言、開会式辞、来賓挨拶（特別御来賓・彬子女王殿下、来賓・西脇京都府知事、松井京都市長、宣誓（日本代表、国際部代表）、表彰（京都府知事賞、京都市長賞、京都新聞社賞、武徳栄誉賞、武徳騎士賞、武徳青少年育成功労賞、総裁賞、理事長賞、武徳国際平和賞、国際武徳優秀賞、国際武徳奨励賞、武徳功労賞）、閉会の辞、閉会宣言、記念撮影

(4) 総括

本開会式は、前回の令和五年に開催した第六回世界武徳祭の成功から世

界武徳の潮流をより大きなものにするべく、多くの国際部武道家の参加により盛大に開催できることを大変意義深いものとなった。

特別御来賓としてお越し賜りました彬子女王殿下の御祝辞の中に「世界平和とは何かに改めて思いをいたすとき、武道という言葉の持つ意味の大切さを、ご参会の皆様にはこの世界武徳祭を機に、それぞれに心にお留め頂きたいと思えます。」とのお言葉に会場全体が感銘を受け、気の引き締まる感動を受けたものとなった。

2 祝宴会

(1) 開催日時

二〇二五年 令和七年四月二十八日午後六時から

(2) 場所

京都ウエスティン都ホテル 瑞穂の間

(3) 式次第

御来賓入場、開会挨拶、開会祝辞（京都府知事）、乾杯音頭（京都市長）、祝宴・懇談、京都フィルハーモニー演奏、閉会の辞、祝宴会の閉会宣言、御来賓退場

(4) 京都フィルハーモニー演奏

一九七二年に結成、一人一人がソリストの個性派揃いのプロの合奏団、クラシック音楽の他に様々なジャンルの音楽もセンスある編曲多く演奏し、京都市のパートナーシップ事業としてタイアップし多くの聴衆を魅了している。

(5) 総括

開会式の厳粛さから雰囲気は華麗、親和ムードに変化し、武道を通じて結ばれた本会本部出席者と国際部武道家が心を通わず親交の場となった。祝宴会後半に披露された京都フィルハーモニー室内演奏団の演奏に魅了された外国人からの熱烈な拍手から明日に控えた第七回世界武徳祭に向けた静かな闘志が感じられる素晴らしい祝宴となった。

世界武徳祭・全国武徳祭開会式に 出席して

一心無双流居合道剣心会

中野 秀人

三笠宮彬子女王殿下を特別御来賓としてお招きした開会式に参加できたことは、誠に感慨深く、このような機会をいただけたことは、感謝の表しようがございません。

女王殿下の御挨拶には、世界平和とは何かと改めて思い致すとき武道という言葉の意味の大切さを心に留めたいとあり、私としても日本文化、日本武道の保存・継承につながるよう日々の稽古を積み重ねてきたつもりではありましたが、この度の開会式で、改めて、その思いを強くいたしました。

また、この開会式において、日本の伝統武道の継承・発展に対し、これまで大いに力を尽くされてきた諸先生方が、数々の栄誉ある賞を受けられたことは、誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げますとともに、先生方に続かなければならないと改めて決意いたしました。

引き続き開催された祝宴会においては、世界二十カ国および日本の各地から集い来た約五百名の武道家と交流を深めることができました。伝統武道を通じた国際親善、国際的な相互理解を深め、こうした活動が国際平和に繋がること期待いたします。

今後、継続して世界武徳祭を開催していくにあたり、何かのお役に立てるよう精進してまいります。



創立130周年記念

第7回 世界武徳祭

第63回 全国武徳祭

日時 令和7年4月29日（火・祝）

午前9時00分

場所 京都市武道センター・旧武徳殿

主催 一般社団法人 大日本武徳会

後援 京都府 京都市 京都新聞

大会次第

◎ 平安神宮祈願祭 4月29日午前8時10分より

平安神宮

修玉奉納	祓納演武	大会委員長 居合道 範士八段	濱田鉄心 落合春彦
------	------	-------------------	--------------

開 会 午前9時00分開始
総合進行委員長：藤井正巳

総裁・来賓入場 開始宣言 優勝旗の返還 個人最優秀賞杯の返還 演武上の注意 祓いの儀	進行委員長 北陸連盟修童館	藤井正巳 中田浩大 宮園國男
	大会管理運営委員長 居合道 範士九段	山田文典 市村章

演 武

国際部演武 剣道形演武 本部古武道演武 納めの儀	居合道 範士九段	伊藤 學
-----------------------------------	----------	------

閉 会 式 午後5時30分

選手整列	大会会長	東伏見慈晃総裁
表彰評	大会検証委員長	竹田 豊
講 會 の 辞	大会委員長	濱田鉄心
閉 會 の 三 唱	大会委員長	濱田鉄心
閉 會 宣 言	大会進行委員長	藤井正巳
閉 會 の 礼	大会進行委員長	藤井正巳
記 念 撮 影		

大会終了後武徳殿において記念撮影をします。

※当日演武場内での携帯電話の使用禁止。場内外からの動画・カメラ等も撮影禁止。
※本会が定めた写真班が当日記録用に撮影いたします。
※本会が定めたコロナウイルス感染予防対策にご理解頂き、ご協力お願いいたします。

第7回世界武徳祭・第63回全国武徳祭 表彰

団体最優秀賞

京都府・滋賀県 一心無双流居合道 剣心会

団体優秀賞 【六団体】

京都府	日本武道空手協会
三重県	古流無双直伝英信流 神和会
石川県	北陸連盟修童館
大阪府	誠道館 虚心流居合剣法
大阪府	一般財団法人 大東流合気柔術 琢磨会
大阪府	弓刀錬心館道場

団体奨励賞 【五団体】

兵庫県	正統無双直伝英信流居合兵法 日本古武道直心会
大阪府	武徳和魂会 心傳流柔術
大阪府	日本古武道 武公館道場
徳島県	誠正館
大阪府	大阪修武会

団体努力賞 【十六団体】

愛知県	日本戸山流居合道
大阪府	日本古式武道協会 拳正会
京都府	正守和道塾
京都府	土佐伝承無双直伝英信流 理法塾
大阪府	大誠会
大阪府	日本古武道 誠慧塾
茨城県	水府流
京都府	至誠館
千葉県	日本伝一心無双流居合兵法 千葉剣心会
兵庫県	心月無想柳流 古武道甲武館
大阪府	神伝円心流
長野県	古武道唯心会
東京都	神刀流
神奈川県	松道流 松栄館
京都府	直伝円心流居合道
大阪府	素心流居合抜刀術

招待団体特別賞 【十一団体】

東京都	一般社団法人 居想会
京都府	登龍館・田宮流居合術元和会京都本部
大阪府	明心館道場
京都府	極心館
滋賀県	NPO法人合気道錬身会 滋賀道場
石川県	加州英信流
埼玉県	双月会
三重県	北勢波動琉空手道 一心塾
東京都	大東流合気柔術 扶桑会
京都府	誠道会
大阪府	関西大学体育会 古武道部

青少年模範演武特別賞 【三団体】

大阪府	日本古式武道協会 拳正会
京都府	正守和道塾
石川県	北陸連盟修童館

個人最優秀賞 桑原兵充杯

アメリカ支部	武心館 Hollie Kumpaitis
--------	----------------------

個人賞**優秀賞 【十七名】**

愛知県	日本戸山流居合道 成田 守
京都府	日本武道空手協会 花元 浄一
東京都	神刀流 田村 敬藏
大阪府	沖縄又吉古武道 光道館 大阪堺守礼館 村山 盛哲
大阪府	神伝円心流 森内 一藏
千葉県	日本伝一心無双流居合兵法 千葉剣心会 村上 亨
京都府	剛柔流 渡邊 勉
兵庫県	日本古武道直心会 石本 一平
石川県	北陸連盟修童館 井本 敏弘
神奈川県	天真正伝香取神道流 杉野 至寛
神奈川県	松道流 松栄館 野川 栄一
京都府	日本武道空手協会 二又 静明
神奈川県	天真正伝香取神道流 岩田 一政
大阪府	一般財団法人大東流合気柔術琢磨会 榎原 恒夫
石川県	北陸連盟修童館 中森 茂範
茨城県	金硬流唐手・沖縄古武術 早坂 義文
大阪府	素心流居合抜刀術 宮園 國男

奨励賞 【十名】

京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会 川崎 竹藏
石川県	北陸連盟修童館 榊田 正博
大阪府	弓刀錬心館道場 浦上 則國
徳島県	誠正館 榎野 正
大阪府	日本古武道 誠慧塾 樋口 友視
長野県	古武道唯心会
京都府	日本武道空手協会 齋木泰徳
大阪府	武徳和魂会 心傳流柔術 高島 伸幸
京都府	土佐伝承無双直伝英信流 理法塾 木下 賢司
兵庫県	日本古武道直心会 中 恒夫

努力賞 【二十八名】

愛知県	日本戸山流 横山 達也
京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会 小田 尚幸
京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会 中野 秀人
石川県	北陸連盟修童館 中森 順子
石川県	北陸連盟修童館 長田 妙子
東京都	松濤館流 土屋 恭之
大阪府	日本古式武道協会拳正会 岡田 豊
大阪府	神伝円心流 渡辺 円裕
大阪府	弓刀錬心館道場 渡辺 宏
茨城県	水府流 落合 剣匠
長野県	古武道唯心会 内藤 誉
大阪府	誠道館 虚心流居合剣法 平田 与一
京都府	至誠館 沖田 茂宏
千葉県	日本伝一心無双流居合兵法 千葉剣心会 杉原 陽一
千葉県	講道館柔道 藪崎 聡
大阪府	日本古武道 武公館道場 恩田 忍
大阪府	大阪修武会 山本 哲也
兵庫県	日本古武道直心会 徳岡 秀一
茨城県	金硬流唐手・沖縄古武術 大村 朝洋
京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会 桐畑 薫
京都府・滋賀県	一心無双流居合道 剣心会 西沢 由則
大阪府	日本古武道 武公館道場 古本 祥太
大阪府	弓刀錬心館道場 塚谷 才英
大阪府	弓刀錬心館道場 山口 健太郎
石川県	北陸連盟修童館 戸田 赳朗
徳島県	誠正館 岩井 孝夫
京都府	直伝円心流居合道 酒井 善宣
京都府	日本武道空手協会 安部 俊伯

第7回世界武徳祭及び第63回全国武徳祭









国際部武道講習会報告書

国際部
坂本 俊一

令和七年四月二十五日、創立百三十周年記念、第七回世界武徳祭・第六十三回全国武徳祭記念「国際部武道講習会」が京都市武道センター及び武徳殿において行われました。

この講習会は、前回の世界大会の後、外国の武道家たちから、「大日本武徳会の本部の先生たちから直接その極意を教えていただけるような機会がほしい。」との声が多数あったことから、実現に至ったものです。

講習会は今回の世界大会など一連の行事の中で最初に行われたことから、受講者のほとんどが来日して間もなく、体調も不十分であったにも関わらず、非常に精力的で、「何かを吸収して帰ろう。」という熱意が現れていました。

午前九時からの開会式典の後、午前中は、山田先生、市村先生、井本先生の居合道、村山先生の沖繩古武道、山本先生の剣道、中森・長田・中田先生の槍術と木下先生の杖術の指導が行われ、また午後からは武道センターの半分ほどに畳を敷いて、北野先生、野川先生の柔術、横原先生の合気柔術、藪崎先生の柔道、上村先生、道観世先生、渡邊先生の空手道、竹田先生の古武道の指導が行われました。受講生たちはそれぞれ事前に申し込んだ種目に分かれて熱心に教えを受けていました。午前と午後の部の最後にはそれぞれの先生方に対してお礼の記念品を贈呈し、感謝の気持ちを伝えて、武道講習会は大きな混乱や怪我もなく、午後三時ころ無事終了いたしました。

今回の世界大会後の意見調査によると、もっと深く鍛錬したいという方もいるようで、今後の武道の多様化や広がりにより期待が持てるような講習会になりました。

国際部武道講習会





青龍殿奉納古武道演武大会



伊勢神宮奉納古武道演武大会



国際部錬成大会



さよならパーティー





第33回 平安神宮奉納 古武道演武大会



日 時： 令和7年10月5日（日）
午前10時30分～

場 所： 平安神宮「額殿」

主 催： 一般社団法人 大日本武徳会

大 会 次 第

◎ 平安神宮祈願参拝 午前10時30分より

玉 串 拝 礼 濱 田 鉄 心

開 会 式

午前11時
司会進行 大会進行委員長：中田浩大

開 会 宣 言 大会管理運営副委員長 松 村 則 夫

開 会 挨 拶 大 会 副 委 員 長 竹 田 豊

演 武 上 の 注 意 大 会 検 証 委 員 長 山 田 文 典

祓 い の 儀 居 合 道 範 士 八 段 井 本 敏 弘

演 武

*時間の都合上、演武時間は7分以内とする。試斬り並びに弓術・古武術も7分以内とします。

閉 会 式

納 め の 儀 居 合 道 範 士 九 段 伊 藤 學

講 評 大 会 検 証 委 員 長 山 田 文 典

閉 会 挨 拶 大 会 委 員 長 濱 田 鉄 心

閉 会 宣 言 大 会 進 行 副 委 員 長 上 村 雅 彦

第三十三回平安神宮古武道奉納演武大会 会報

至誠館 藤井 正巳

令和七年十月五日（日）第三十三回古武道奉納演武大会が平安神宮額殿にて開催されました。

秋の雨が降り少しむし暑い天気の中、大会が執り行われました。午前八時半すぎには、理事の山田先生を始め、上村先生らが集まり、平安神宮の額殿の準備に取り掛かり、作業を無事に終えました。

午前十時十分より額殿前に参加者が整列し、前の祈祷が終わるのを待ち、平安神宮拝殿にて祈祷、玉串奉納等が執り行われました。

平安神宮額殿に戻り、記念撮影をおこない、山田文典先生より検証委員等の時間割、役割等の説明があり、続いて大会が開催されました。

「祓の儀」は範士八段 井本敏弘先生の演武で始まり、さらに、誠正館の演武、神和会、剣心会A、修童館A、拳正会A、拳正会B、拳正会C、双水執流武尊会A、誠慧塾、直伝円心流大誠会、神武会、理法塾、大阪堺守礼館、至誠館A修童館B、戸山流中村流抜刀術、講道館柔道、松栄館、天然理心流、大阪修武会、日本古武道直心会、双水執流武尊会B、古武道唯心会、琢磨会、日本古式武道拳正会、正守和道塾、剣心会B、智心流兵法空手道、剛柔流、至誠館B、無双直伝英信流、虚心流居合拳法、修童館C、素心流居合抜刀術の先生方の見事な演武が続きました。

途中の進行状況は、各道場の先生方が制限時間をきちんと守り大変スムーズにながれました。途中の雑音にもめげず集中されて演武がなされたことには、感動いたしました。

写真撮影禁止の看板があり、全体としてうまく機能しておりました。

また、移動警備等においても、トラブル等はなく、無事責務を果たしました。

「納の儀」では範士九段 伊藤學先生の気迫のこもった演武で第三十三回平安神宮古武道奉納演武大会は、午後二時二十五分に無事終了致しました。

御礼の御挨拶

第33回平安神宮奉納古武道演武大会も皆様の多大なる御協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。

ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人大日本武徳会

大会 参 与

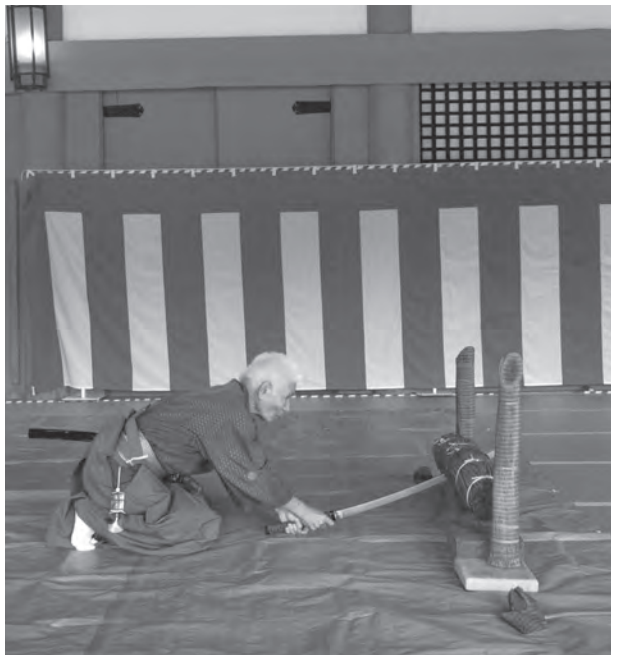
ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体（順不同）

御 芳 名	御 芳 名
濱 田 鉄 心 様	竹 田 豊 様
市 村 章 様	山 本 楠 城 様
坂 本 俊 一 様	石 本 一 平 様
伊 藤 學 様	松 道 流 松 栄 館 様
山 田 文 典 様	中 野 秀 人 様
小 松 秀 敏 様	平 林 裕 蔵 様
北 川 茂 様	杉 生 闡 祐 様
渡 邊 勉 様	村 山 盛 哲 様
樋 口 友 視 様	田 中 悠 樹 様
正守和道塾・上村雅彦様	神 和 会 様
日本古式武道協会拳正会様	中 田 武 太 様

今大会は、前年に比べスムーズに進行し、威厳を伴った有意義な大会であり、多くの事柄において改善がなされておりました。おわりに、大会の準備、進行等に携われた先生がたのご協力に深く感謝し、一般社団法人大日本武徳会の今後さらなる発展と、各道場流派の先生方の栄達を祈念申し上げます。









高段者審査会
合格者

【居合道】

六段

山川

正

七段

沖田

茂宏

七段

中野

秀人

七段

小田

尚幸

七段

渡辺

円裕

七段

橋本

御

八段

東出

廣志

八段

杉生

闌祐

八段

松村

則夫

【空手道】

八段

齋木

泰徳

七段

安部

俊伯



第十三回定時社員総会 及び
第十七回武道執行専門委員会

日時 令和八年一月十八日（日）

場所 京都東急ホテル

第十三回定時社員総会の報告

理事 坂本 俊一

令和八年一月一八日、一般社団法人大日本武徳会第十三回定時社員総会が、午後一時から京都東急ホテルにおいて開催された。

冒頭、進行役の中田浩大理事が開会宣言を行い、国旗・武徳会旗に対し礼の後、黙祷がなされた。その後、事務局から「本総会には、正社員総数百七人中三十五人が出席しており、委任状提出者が四十七人であったことから、議決権社員の総計が八十二人で、本定時社員総会が成立する。」ことが報告された。

続いて総会議長の発表、議事録作成者の発表があり、山田文典代表理事が開会にあたっての挨拶を行った。ご自身の代表理事になった経緯を簡単に説明した後、「午前中の武道執行専門委員会では非常に闊達な意見交換がなされた。本総会でも皆さんの忌憚のないご意見を賜りたい。」旨挨拶した。

総会議長に指名された山田代表理事の進行で、議題ごと順に総会が進行した。

一、第一号議案及び第二号議案

塩田事務局長から「二〇二五年度事業報告及び収支決算報告」がなされた。引き続き、坂本・平の両監事から「適切に執行されていた」旨の監査報告がなされた。その後、両議案につき決議を行い、満場多数で承認された。

二、第三号議案及び第四号議案

塩田事務局長から「二〇二六年度事業計画」及び「二〇二六年度収支予算案」についての報告があり、両議案につき決議を行ったところ、満場多数で承認された。

三、第五号議案

前代表理事の退会に伴い山田文典理事が残りの任期一年を代表理事として務めることが理事会で承認された。

前代表理事が務めていた国際部長に国際部の坂本監事を任命し、あわせて坂本監事を理事に任命することとした。

その後任監事として、山本勇先生を任命する。

この三人の役員改正につき決議を行ったところ、満場多数で承認された。

四、第六号議案
右記三の三人から就任の挨拶があった。

五、第七号議案

「内規施行規則 第七号 武道執行専門委員に関する規則 第二条」の改正に伴う説明が上村理事からなされた。

補足として、代表理事から、「内規施行規則 第二号 支部及び団体等の設置、運営等に関する規則 第十六条」に関し、イベントを実施する際はすべて事前承認が必要なわけではなく、武徳殿、平安神宮、伊勢神宮等当会主催の大会が実施される場所において支部や道場等の大会を計画するときは、事前に本部に報告してすり合わせをしてほしいという趣旨である旨、説明があった。

六、第八号議案

午前中実施した武道執行専門委員会の各座長から検討結果の発表がなされた。

(一) 組織管理委員会 (藤井正巳理事)

正会員と一般会員の区別、準武道執行専門委員の正会員化、除名と退会の区別、復会方法、会費の減額、規約のシンプル化などに関することを検討した。

(二) 活動活性委員会 (山本勇監事)

剣道の盛り返しについて特化し、剣道形の交流研修会の実施、旧武徳殿における剣道形の講習会の実施、居合と剣道の交流などについて検討した。

(三) 未来発展 (上村雅彦理事)

ア 国際部との連携

武種別の講習会の実施、支部大会への参加、海外からの受入体制の強化 (各道場 間の連携強化) などを検討した。

イ 青少年の育成

父兄、保護者に認められる道場にするため、心の教育や礼節の重きを置いた指導、大日本武徳会の名称をもっと幅広く気軽に使えるようにする施策、一度辞めた人に戻ってきてもらえるような環境づくり、などについて検討した。

(四) 情報発信 (平監事)

各道場からユーチューブやTikTokなどSNSへの活動状況の発信、武徳会のホームページを気軽に見やすくすること、大会の写真撮影などについて検討した。

七、第九号議案及び第十号議案

塩田事務局長より、二〇二六年度本会主催事業の内容及び後援事業として大阪府支部の武道研修会の日程等が報告された。

八、第十一号議案

上村理事より、昨年度から会報を年一回の発行として内容を充実させることとした旨報告があった。

また、坂本理事より、国際部の事業実施状況及び十月のアメリカ合宿に参加した結果について報告があった。

九、質疑

山田議長から、個別の質疑ではなく一人一人から順次ご意見を伺う機会としたい旨の発言があり、一人二分以内で感想や意見・今後の抱負などを語る機会を設けた。

質疑の後、代表理事から「内規の改正など、できることから一つ一つ進めていきたい。」旨、発言があった。

すべての議題の審議が終了し、最後に山田代表理事から「新しい組織で一人一人が活躍してほしい。今次総会では、色々と闊達なご意見が多数聞かれた。執行部一同、不転の覚悟で前に進んで参りますので、ご協力を賜りたい。」旨、閉会にあたっての挨拶があり、午後三時三十分、国旗並びに武徳会旗に対する礼の後中田理事が閉会を宣言して、第十三回定時社員総会は閉会した。

以上







道場活動だより

大日本武徳会と武徳鐵扇

旧沖繩県支部（金硬流唐手・沖繩古武術）
範士八段

早坂 義文

「武徳鐵扇」とは、明治時代に入り大日本武徳会の会員として武道家が所持する武道具でありました。

それは、江戸時代の侍の携帯する小武器の一つであったからです。

鐵扇を販売する雑誌広告には、「鐵扇は指揮、護身、審判その他諸式に用い、威武を正しうするものなれば古の用意周到なる武術家は、外出にも座上にも常に身辺を離さざるものなりし、故に今日古式を貴ぶ武術家がこれを携帯するときは、何となく古武士を偲ばしめて達しきものなり。」と記載してあります。

この武徳鐵扇が大日本武徳会に於いて、会員のシンボリックの所持品になっていたことを知る人が少なくなってきました。

現存する大日本武徳会鐵扇も数が少なくなり、当時の貴重な資料となっております。

戦前の武徳会の演武会に参加していた武道家三宅清七翁が居ました。

目が不自由ながら心眼の目で見て相手を制圧した素晴らしい技法を伝え、鐵扇術錬士の称号を保持しておりました。

三宅清七は、文久三年五月二十五日、徳島県美馬郡江原町大字拜原村で生まれました。

柳生流鐵扇術を森種之助に学び、同流の鎖鎌術を加美栄太郎に学んだと伝わり、四十歳頃より両眼を失明しましたが、鐵扇術を門弟に指導するも常人と何ら変わりなく伝授しました。

また、三宅は自流を三宅心眼流と名乗り、自己の学んだ柳生流鐵扇術に自分の名字を冠し、目は見えなくとも敵の気配を察し心眼で見るとの気構えであったと伝えられています。

鐵扇術錬士之部

三宅清七 昭和七・精錬士
徳島縣美馬郡江原町大字拜原村 文久三・五・二五生
野々村 淺太郎 昭和七・精錬士
徳島縣美馬郡江原町大字猪尻 明治一三・九・二六生



そして、大日本武徳会の鐵扇を「武徳扇・武徳鐵扇」として販売したのが、土屋便利堂、中田好美堂などでした。

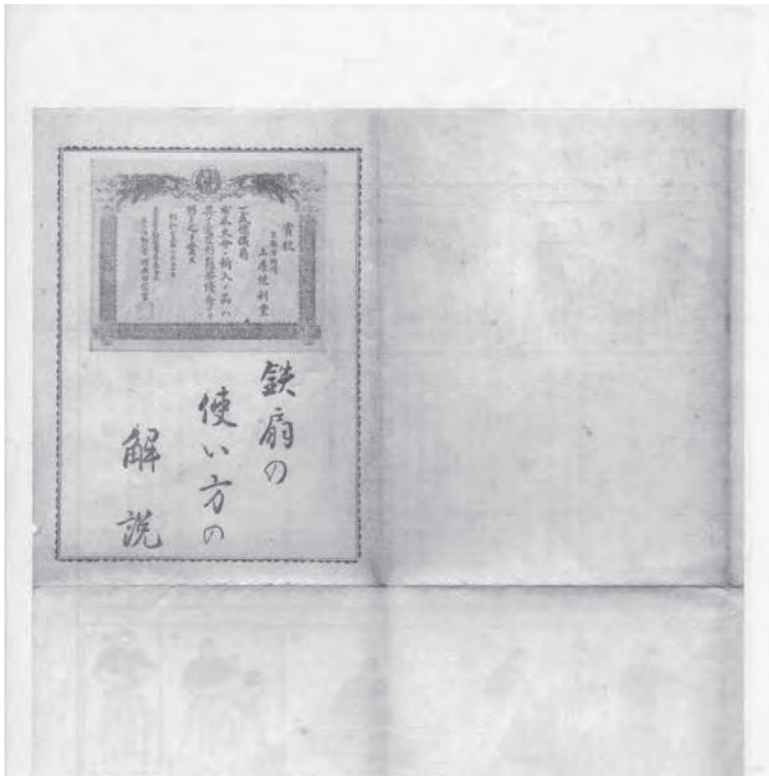
そして、土屋便利堂が発行した「鐵扇の使い方解説」と題した資料がありますので参考として掲載します。

この土屋便利堂は、昭和十三年十月二十日河原田稼吉文部大臣が武徳会の役員を務めていたときに表彰されています。

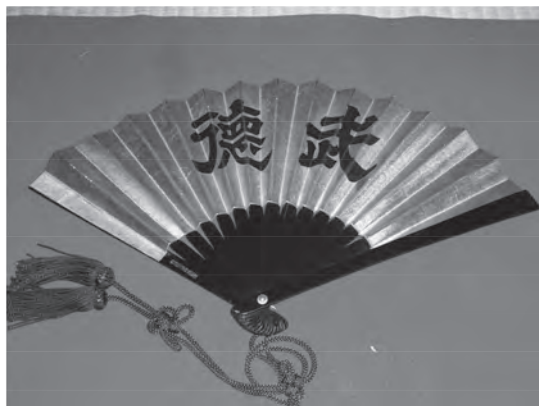
私が所持する武徳鐵扇は、三本あります。

その一本は、伏見宮貞愛親王の署名押印のあるもの、二本目は、剣道教士號拝受記念と刻印されたもの、三本目は、桐の箱に収まった京都寺町五条南久寿扇本舗御影堂桑林庵阿彌が販売した武徳鐵扇です。

大日本武徳会は、創立百三十年の歴史が経ち、良き伝統の炎が未来永劫となることを祈念して武徳鐵扇について記述しました。



剣道教士號拝受記念



久寿扇本舗御影堂桑林庵宣阿彌



伏見宮貞愛親王



令和七年七月十九、二十日に、毎年一泊二日で恒例となっている夏合宿が行われました。

今回の会場は、湖西にある大津市木戸の公民館で稽古、宿泊は琵琶湖岸の和邇浜水泳場近くにある民宿山宗でした。

普段は、京都・滋賀各地の六道場あるそれぞれにわかれて稽古をしています。稽古は、剣心会一同が顔を合わせる貴重な機会となりました。今回は二十名を超える参加となりました。

稽古は、初伝の形理解を深めることを中心に、練度に合わせて中伝に取り組みましたが、さらに、剣道防具をつけた剣士に打ち込んでみる、新聞紙を居合刀で斬ってみるといった普段はあまり行わない遊び心を取り入れた稽古も行われました。

宿泊では、好天に恵まれ琵琶湖にてパーベキューを行い、楽しいひと時を過ごすことができ、それぞれが、練度に合わせて自分の居合形に血を通わせる良い稽古となりました。



道場だより

一心無双流居合道剣心会
錬士 六段

小田 尚幸